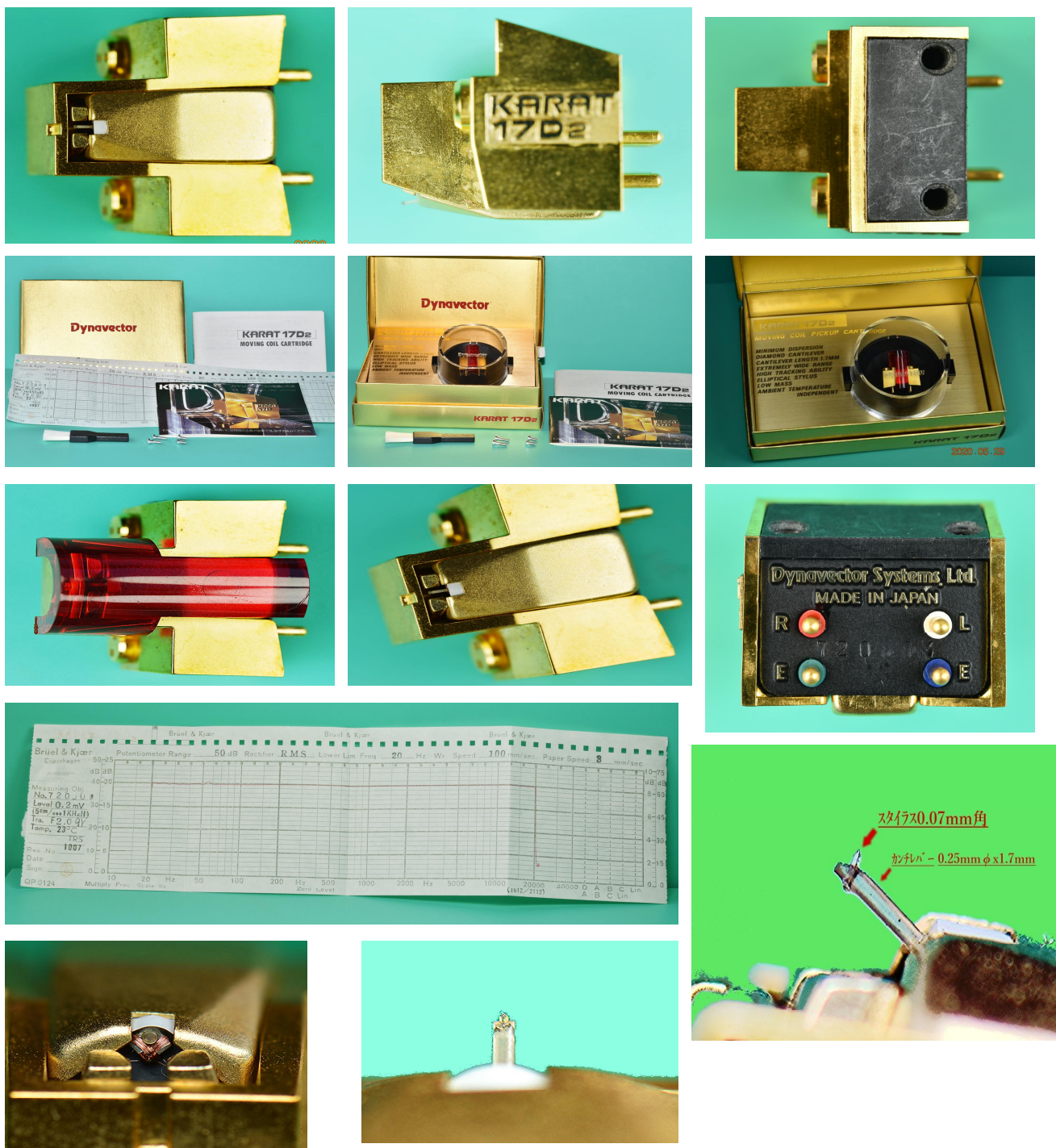


NO:16.1 形 式 Karat 17D2 ダイナベクター (Dynavector)



- ① MC ② 20 ~ 300,000 ③ 0.2 ④ 0.07 x 0.07mm 角 ⑤ 5.3 ⑥ 1.8 ~ 2.0 (1.9 標準) ⑦、⑧ 32 ⑨ 20 ⑩、⑪ 25 ⑫ 1
⑬ 15 ⑭ 3.2 ⑮ 90 ⑯ 1984 ⑰、⑱ 38,000、⑲ あり ⑳ 取扱説明書

音元出版アナログ誌情報：ダイナベクターは元大学教授の富成襄は技術援助していたオンライフリサーチを買収し、社長になり、1978 年社名をダイナベクター(株)に改めた。(オンライフという名前の意味が分かりにくいことから、動的なベクトルという意味のダイナベクターとなった。)

フラクスタンパーの採用 (ムービングコイルに発生した信号電流が、自らの磁気回路の磁束を乱すので逆位相で除去する方式)。世界で初めてダイヤモンドカンチレバーを製品化し、KARAT シリーズを出した。使用時、カートリッジ底面とレコード面の間隙は、最低時 0.3mm しかないので最新の注意が必要です。試聴したところ歪み感のない高音の響きの良い、リアル感のある音が出ていた。

NO:16.2 形 式 DV-15B ダイナベクター (Dynavector)



① MC、② 20 ～ 30,000、③ 1.8、④ シバタ針、⑤ 10、⑥ 1.5、⑦、⑧、⑨、⑩、⑪ 25、
⑫、⑬、⑭、⑮、⑯ 1975 以前、⑰、⑱ 23,000、⑲、⑳ SG'75

音元出版アナログ誌情報：ダイナベクターは元大学教授の富成襄は技術援助していたオンラインリサーチを買収し、社長になり、1978 年社名をダイナベクター(株)に改めた。(オンラインという名前の意味が分かりにくいことから、動的なベクトルという意味のダイナベクターとなった。)

この製品はオンラインリサーチ時代の製品 (OMC-38 15B) です。15シリーズは4種あり、15A、15AQ、15B、15BQ です。主な特徴 15A、15AQ の針先 0.6mil、15B、15BQ はシバタ針、ベリリウムカンチレバです。1975 年以前から販売されていましたが、カンチレバのむき出し構造は、当時のカートリッジとしては特異な構造に思えます。

試聴したところ明瞭感のあり、聞いて疲れのこない優しい音がでています。